

アポローン靴店

1幕

(アポローン靴店の店内では店主と男Aが談笑中。男Bは、店先を一度通り過ぎる。同じ三国駅前商店街で五十メートルほど先にある別のチェーンの靴修理店を一度のぞき、再び店頭に戻ってくる。店頭に来た男Bが声を掛けたため、店主が出てくる)

男B すみません。ここで靴の修理できますか？

店主 やってるけど、あっちの方が機械だから早いよ。うちは手作業でやるからあっちの方が早いよ。

男B 一応見てもらうだけ見てもらっていいですか。

(男B、革靴を紙袋から取り出し、店主に見せる)

店主 これ、高かったんちゃう？

男B ええ、まあ。

店主 こんなの初めてみたよ。結構高かったんちゃう？

男B セールで安くなってて、二万か三万くらいで買ったと思います。

店主 でしょう。かかとのところに穴が空いちゃってて、靴底もにこれ足さなあかね。ちょっと待って。

(店主、「靴の底が」「かかとの縁が」などつつぶやきながら、電卓を叩く)

店主 全部で七千円かかっちゃう。でもあっちの方が機械でがーっとやるから早いよ。あっちでお願いしたら高く付いたからといって、こっちに持つてくるという人もいるけれど。

男B あの、全然急いでないんでこっちでお願いできますか？相談にも乗ってくれ、親身になってくれそうなので。

店主 これは一日掛かりでやらなあかん。うーん、金曜日になっちゃうけどいいですか

男B 大丈夫です。お願いします。

(男B、七千円を財布から取り出し、店主に手渡す)

店主 金曜日にまた来て下さい。紙袋も預かります。

男B (ペンを手に何かを書くような動作をしながら) あの、名前控えたりとかはないんですか。

店主 大丈夫です。顔覚えましたんで。

男B あ、よろしくお願いします

(男B、店を立ち去る)

2幕

(男B、アポロ靴店に入る)

男B すみません。(二秒空けて) すみませーん。

(男B、一メートルほど前に進む)

男B すみませーん。

(男B、周囲を見渡し、店内から商店街をのぞき見る。店内の写真を二、三枚撮影する)

男B すみませーん。

店主 はいはい。

男B あの、お願いしていた中嶋です。

(店主、レジ裏から紙袋を出し、革靴を取り出す)

男B わあ、ありがとうございます。

店主 底にソールを貼り付けて、この溝も埋めてるので。内側もこんな感じですよ。

男B 綺麗になってますね。

店主 裾の部分は革を外から貼ろうとしたけど同じ紺色の革はなくて、内側からこうやって補強してますわ。

男B サンダルで来ちゃったので今は試せないですが、家で試します。ありがとうございます。

(男B、革靴を手に取り、四方八方から眺める)

店主 あと、革を貼る予定でいたから、二千円返さなあきまへんねん。

(男B、「このまま二千円の返金を受けるのは面白くないのでは」と頭を巡らせる)

男B それなら二千円分の修理をお願いすることってできますか？今日の午後にも別の靴を持ってきますんで。

店主 それで大丈夫です。お待ちしています。

男B ありがとうございます。また来ます。

(男B、自宅で修理したい革靴を選び、午後に再びアポロ靴店に戻る)

店主 お待ちしていました。

男B すみません、二足持ってきました。二千円で間に合うか分からないんですけど。

(店主、靴を手に取り驚いた表情)

店主 こんなところに隙間ができてるのは初めて見た。これはかかと部分を一回外して、革を内側から巻きこむように貼らないといけないかなあ。

男B (焦るように) 二千円で収まるかわかりませんが、ひとまず二千円分でやってくれば構いませので。

店主 こっちもかかとがすり減っちゃってるから足さないといけない。もしかしたらソールを削って足すか、どうだろう。

(店主、電卓を叩き始める)

店主 うーん、二足で五千五百円かかっちゃうよ。預かっている分を除いても。

(店主、再び靴を手取る。中敷きのようなものを靴底にあてた後、再び電卓をはじく)

店主 応急処置ということで四千円になります。

男B え、いいんですか。大丈夫ですか？

店主 大丈夫です。応急処置ですんで。

男B あと、すみません。いま小銭程度しか持ってきていなくて。三千円しかないんですが。

店主 大丈夫ですよ。

男B 一千円は次回持ってきますから。

(男B、折り畳んでポケットに入れていた三千円を開き、店主に手渡す)

男B 靴の修理って多いんですか。

店主 いやあ、うちは靴の販売をメインにしている。修理はあっちの靴屋に任せることにしている。同業だからよく知っているけど、細やかな修理はうちの方がいいというか、向こうだと小さな修理でも高いと言われましたわという人がたまに来るけど。

(店主、靴二足を紙袋とともに預かる)

店主 土曜日にまた来て下さい。

男B よろしく願います。

3幕

(アポロン靴店のレジ前では、店主と男Aが談笑中。男Aはコーヒーを飲んでいる。隣のイス上には革靴を入れてきていた紙袋が置かれている)

男B こんにちは。

店主 どうもお待ちしていました。

(店主、革靴二足を紙袋から取り出す。男B、靴を手取る)

男B えっ、新品みたいになってますね。

店主 こっちは底をいったん外してから革を中から巻き込んでいます。こっちもかかとの部分を外して、新しいソールを貼り付けています。

男B これは本当、ありがとうございます。見違えますね。

(男B、男Aと目が合って会釈をする)

店主 いえいえ、ありがとうございます。靴紐も気になったんで新しく変えています。

男B あ、ホントだ。少しぼろくなってたんですよ。

男B あとこの前の一千円が…。

店主 いえいえ、結構です。いつもごひいきにしてくれているので。

男B 本当がいいんですか？

店主 はい、ごひいきにしていますんで。

男B 一見さんでもいつもこんな感じなんですか。

店主 いえいえ、うちはそんなことしないですよ。

男B でも本当に新品みたいにしてもらって。

店主 いやあ、革を貼り付けるのとかも、やってみないとわかりませんわあ。

(店主、革靴を紙袋に入れて男に渡す)

男B またお願いするものがあつたらお願いさせてもらいます。ありがとうございました。

(男B、店主と男Aに会釈をして店を後にする)

4幕

(男Bと女A、アポローン靴店を訪問。男Bが先に店内に入る)

男B こんにちは。

店主 いつもお世話になっております。

男B 今日は妻の靴の修理をお願いしたいんですが

(女A、一歩前に出る。紙袋からブーツ二足を取り出す)

女A ブーツのかかるとに両方とも穴が空いてしまつて。

(店主、ブーツを手取る)

店主 (小声で) ここつて瞬間接着剤塗っちゃつた？

女A 瞬間接着剤？いや。

店主 ここに瞬間接着剤塗つてるみたいでかちかちになつている。

女A いや、ずっとこうだと思つてすけど。

店主 普通は穴が空いたところに革を伸ばすんですけど、ここがかちかちになつちやつているからうまく伸びないと思う。ひとまずやってみます。

女A よろしくお願いします。

(女A、靴の入っていた紙袋を店主に預ける)

店主 これ、どちらも右はなんともないのに、左側の足だけ同じところに穴が空いているね。

左側にクセがあるみたいだ。

女A へえ。

店主 (壁に貼つてあるカレンダーを振り返りながら) 木、金は休むかもしれないから、土曜日に取りに来て下さい。大丈夫ですか？

男B 大丈夫です。宜しくお願いします。

店主 いつもありがとうございます。

(男Bと女A、店を出て商店街を歩く)

女A 聞いていた話だと頑固親父みたいな感じだったけれど、全然頑固親父じゃなかったね。

男B うん。穏やかな感じでしょ。

女A 値段はいくらくらいかな。

男B わかんないけど、とうとう値段も言われなくなったのかと思つていたところ。

(男B、店内に入る。レジ前のイスの上に靴を入れてきた紙袋が置いてあるのが目に入る)

男B どうも、こんばんは

店主 いつもお世話になっております

(店主、レジ前のイス上にある紙袋からブーツを取り出す)

男B わあ、綺麗になってる。革のところはどうになりました？

店主 革は伸ばして少し足しました。これが限界です。こうなったときは接着剤をつけられちゃうとできなくなるので

男B 見違えましたね

店主 はい。革を足しましたんで、千八百円になります。あ、こないだ僕の勘違いで千円足りなかったんですよ？次はこうなっちゃったら接着剤を塗らずにそのまま来て貰えますと…。

男B そうです。あれどうなんだろうって、前々回来たときに千円足らなくて。前回来たときに三千円払って…あれって。

店主 あれ僕の勘違いでしたわ。でも大丈夫です。

男B すみません。

(店主、紙袋の中を開いて見せる。二足のブーツの間には見慣れぬ新聞が挟まっている)

店主 あと白くなっちゃってたんで靴にスプレーもしてますんで。黒いのが付かないように新聞も入れてます。

男B 妻も喜ぶと思います。ありがとうございます。あそこの靴屋じゃ、こんなしてくれないですよね。

店主 そうなんですか？

男B いや想像ですけど。

店主 うちの靴は元通りに近いようには戻すようにしてますんで。またどうぞお願いします。

(店主、男Bに靴の入った紙袋を渡す。聖教新聞が入っているのが見えた。男B、店を出る際に再び会釈をして後にする)(了)